

Kobe Kaisei Hospital Global Human Resources

2025年 第3号

発行:神戸海星病院

編集:看護部・企画広報室

NEWS REPORT

EXPO 2025 OSAKA, KANSAI, JAPAN × KOBE KAISEI HOSPITAL

まずぶかせいびょういん そうりついらい くじゃぶんか これ ちぎょを かいりょう を大切にしてきました。 神戸海星病院では、創立以来「国や文化を超えて支え合う医療」を大切にしてきました。

このたび、万博インドパビリオンで開催されたイベントにおいて、当院のインド出身の看護 補助者とともに登壇し、外国人職員との協働について発表する機会をいただきました。

当日は、インド総領事館の管様や大阪府庁のご担当者様、運営を担う株式会社NAVIS の方々とともに、国や地域を超えた連携の広がりを実感する場となりました。

スライドで発送しました「共に撃む、これからも」という言葉には、首々現場で芰え合う 仲間への懲謝、そしてこれからも共に前へ進んでいくという思いを込めています。

本号でも、外国人職員をはじめ多様な人財が活躍する神戸海星病院の今を感じていただければ幸いです。

ぶくいんちょうけんかんごぶちょう 副院長兼看護部長

認定看護管理者 篠原 里美





Norkforce Across Borders Japan Cooperation in Human Resource 2025年9月11日 (条)、 学蔵・ 資産学籍のインド麓にて、

2025年9月11日 (大)、 大阪・関西方博のインド館にて、

「Workforce Across borders India-Japan Cooperation in Human Resources」

というイベントに参加しました。





この日も大勢の人が、大阪・関西万博に来場され、インド館の前も長蛇の列でした。 ハスの花びらのような外観のインド館は、大きな蓮花手が印象的です。



バーラト (インド) 麓 Xより



ンド館のマスコット、 クジャクの「マユール」 イベントでは、

外国人材を受け入れることになった経緯や、受け入れてからの取組みなどを発表しました。 その後、境市のグループホームで働くインド人スタッフとともに、クロストークセッションが行われました。

来日して困ったこと、休みの日の過ごし方、そして「年後の自分は・・・。

「関西谷は、インドで習った日本語とはちょっと違う。難しい、ちょっと怖い。でももっと上手に話せるようになりたい!」「介護福祉士の試験に合格したい!そして結婚もしたい!」

学まで知らなかった一節が見えたような気がしました。

ふたりの1年後の成長が楽しみです。







(帰国サポート休暇) 制度を制 定しました。

外国人就勞者および外国在僅の家族を持つ職資が、日々の職務から離れ家族と交流を持つことで必算ともにリフレッシュを図り、この保電取得により質の高い態者サービスの提供と業務の質を尚上することを質的とし、2年に一度の複雑的保電を取得できるよう【帰国サポート保電】制度を2025年4月に制定しました。

この夏、2名の看護補助者がこの制度を利用し、一ヶ月間の一時帰国をしています。

がいこくじん なふだ じぶん くに こっき 外国人は名札に自分の国の国旗のピンバッチをつけています。 ミニミニ 会話講座 ③

みんな日本語が上手ですが、その国の言葉で話してみましょう!!



編集後記

イベント終了後、バラダナティヤムというインドで最も古い古典舞踊を見ることができました。きらびやかな衣装、力強いステップに合わせて奏でる足首に巻いたグングルというきれいな鈴の音、そして 間力や顔の表情に圧倒されました。楽しかった万博も終わってしまいました。万博ロスです。